

## 練習問題

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

「学習のてびき

熊をとる獵師りやうしの小十郎せうじやうが、熊の母子の会話を聞いたあとの気持ちを読み取り  
ましよう。

小十郎がすぐ下にわき水のあったのを思い出して少し山を降りかけたら、おどろいたことは母親とやっと一歳さいになるかならないような子熊と二ひき、ちやうど人が額ぬかに手をあてて遠くを眺めるといったふうにあわい六日の月光の中を、向こうの谷やを上げ見つけているの①にあった。小十郎はまるでその二ひきの熊のからだから後光ごこうがさすように思えて、まるでくぎづけになったように立ちどまって、そっちを見つめていた。すると子熊があまえるように言ったのだ。

「どうしても雪だよ。おっかさん、谷のこっち側がわだけ白くなっているんだもの。どうしても雪だよ。おっかさん。」

すると母親の熊はまだしげしげ見つけていたが、やっと言った。  
「雪でないよ、あすこへだけ降ふるはずがないんだもの。」  
③

子熊はまた言った。

「だからとけないで残のこったのでしょ。」

「いいえ、おっかさんはあざみの芽めを見にきのうあすこを通ったばかりです。」

小十郎もじっとそっちを見た。

月の光が青じろく山の斜面しゃめんをすべっていた。そこがちやうど銀のよろいのように光っているのだった。しばらくたって子熊が言った。

「雪でなきやあ霜しもだねえ。きっとそうだ。」

ほんとうに今夜は霜が降るぞ、お月さまの近くで、コキエもあんなに青くふるえているし、第一お月さまの色だ注2ってまるで氷のようだ、小十郎がひとりで思った。

「おかあさまはわかったよ。あれねえ、ひきざくらの花。」

「なあんだ、ひきざくらの花だい。ぼく知ってるよ。」

「いいえ、お前まだ見たことありません。」

「知ってるよ。ぼくこの前とって来たもの。」

「いいえ、あれひきざくらでありませいん、お前とって来たの、きささげの花でしょう。」

「そうだろうか。」子熊はとぼけたように答えた。

小十郎はなぜかもう胸むねがいつぱいになって、もう一ぺん向こうの谷の白い雪のような花と、余念よねんなく月光をあびて立っている母子の熊をちらっと見て、それから音をたてないようにこっそりこっそりもどりはじめた。風があっちへ行くな行くなと思⑥いながら、そろそろと小十郎は後ずさりした。くろもじの木のおいが、月のあかりとっしよにすうつとさした。

（宮沢賢治『なめとこ山の熊』）

注1 後光ごこうは仏やばさつの体からさすという光。

注2 コキエは星の名。

注3 余念なくは集中している様子。

15

10

5

25

35

30

問一 —— 線①「しげしげ」の意味としてよいものを次から選び、記

号で答えなさい。

- ア じつくりと      イ うたがわしそうに  
ウ のんびりと      エ たのしげに

問二 —— 線②「まるでくぎづけになったように立ちどまって」は、

小十郎のどんな様子を表していますか。よいものを次から選び、  
記号で答えなさい。

- ア おそろしさのあまり足がすくんで、立ちつくしてしまった様  
子  
イ まぶしさに目がくらんで前が見えなくなり、歩けなくなった  
様子  
ウ 何となく興味をひかれ、よく見てみようとい立ちどまった  
様子  
エ 美しく、とうといものに出あった気がして、動けなくなった  
様子

問三 —— 線③「雪でないよ」とありますが、母親の熊は、雪ではな

く何だと言っていますか。文中から書きぬきなさい。

問四 —— 線④「小十郎がひとりで思った」内容は、どこからどこま

でですか。その部分の初めと終わりの五字を書きぬきなさい。

初め

終わり


問五 —— 線⑤「小十郎はなぜかもう胸がいっぱいになって」とあり

ますが、なぜ小十郎は胸がいっぱいになったのだと考えられます  
か。よいものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 向こうの谷が、銀のよろいのように光って美しかったから。  
イ 子熊のことが、とぼけていて愛らしくかったから。  
ウ 母熊が、いろいろなことを知っているのに感心したから。  
エ 母熊と子熊の会話に、美しい母子の情を強く感じたから。

問六 —— 線⑥「風があっちへ行くな」とありますが、風が熊

のほうへふかないようにと小十郎が思ったのはなぜですか。

## 2 次の詩を読んで、あとの問いに答えなさい。

「学習のてびき」

作者が何を何にたとえて詩をえがいているのかを読み取りましょう。

しょうじ  
金子みすゞ

① おへやのしょうじは、ビルディング。

しろいきれいな石づくり、

空までとどく十二階、

お部屋のかずは、四十八。

一つのへやにはえがいて、

あとのおへやはみんな空<sup>から</sup>。

四十七間のへやべやへ、

だれがはいつてくるのやら。

② ひとつひらいたあのまどを、

どんな子どもがのぞくやら。

——まどはいつだか、すねたとき、

指でわたしがあけたまど。

ひとり日ながにながめてりや、

そこからみえる青空が、

ちらりとかけになりました。

問一 ——線①「おへやのしょうじ」の説明としてよいものを次から

選び、記号で答えなさい。

ア ビルディングの絵がえがかれている。

イ そばにしろいきれいな石がおいてある。

ウ はえが一びきだけとまっている。

エ あちこちにあながあいている。

問二 ——線②「ひとつひらいたあのまど」とありますが、「あのまど」がひらいたのはなぜですか。

問三 この詩の「わたし」の様子としてよいものを次から選び、記号

で答えなさい。

ア しょうじの小さなあなから外をながめている。

イ しょうじをあけて青空をながめている。

ウ しょうじにらくがきをして遊んでいる。

エ 家の近くのビルディングをながめている。

問四 この詩の説明になるように、次の（ ）にあてはまることは

を詩の中から六字で書きぬきなさい。

しょうじを（ ）にたとえている。
